

第6期雄武町総合計画後期基本計画 策定審議会第1回社会福祉・教育部会 議事録

【日 時】 令和4年10月13日（木） 18:30～20:54

【場 所】 雄武町役場別館 中会議室

【出席者】 竹田 浩二 部会長 大星 幸恵 部会長代理
中島 亜紀 部会員 佐々木光明 部会員 大崎 禎浩 部会員
関岡 修 部会員 四辻 裕二 部会員 橋本 幸子 部会員
松永 裕香 部会員 山田 香里 部会員
(欠席者) 中島 徹 部会員 渡邊 恵 部会員
(町) 事務局～横田財務企画課長 渡部財務企画課長補佐
樫山企画調整係長 本村企画調整係 豊田企画調整係

【会議次第】

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 議事
(1) 第6期雄武町総合計画前期基本計画推進状況報告書について
- 4 その他
- 5 閉会

【配付資料】 ・基本施策別担当専門部会一覧
・雄武町地域公共交通等に関する町民アンケート調査報告書

【議事録】

- 1 開会（開会時刻：午後6時30分）～ 財務企画課長

2 部会長あいさつ

「皆様におかれましては、お仕事でお疲れのところ、また、子ども・子育て会議の皆様をはじめ、家事でお忙しいところご出席いただき、大変ありがたく思っております。6期の後期に向かって計画を策定していくことになりますけれども、私どもの部会は、医療・福祉・教育と、町内においても課題が多く、改革していかなければいけない部分が多い分野となっておりますので、ご意見等いただきながら執り進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。」

(以後、竹田部会長が司会を進行)

3 議事 ～ 配付資料に基づき、企画調整係長から説明

(1) 第6期雄武町総合計画前期基本計画推進状況報告書について

事前配付した「第6期雄武町総合計画前期基本計画推進状況報告書」について、基本施策ごとに事務局において読み上げ。

【基本施策7 高齢者支援の充実(25頁～27頁)】

(部 会 員) 「地域包括ケアシステム」について詳細を教えてください。社会福祉協議会等で個別のケアマネジメントを実施しているかと思うが、それを地域でどう包括的に構築していくのかがわからない。

(部 会 員) 1人に対して各事業所が周りを固めて、「皆でこの人に対する支援を考えていく」ということかと思う。これまでケアマネージャーだけで考えてきたことが、障がい分野など様々な分野が集まって、その人の生活自体を考えていくという包括的なものになってきている。そのため、私が運営している事業所もその一員となって、その人をどう支えていくかを皆で考えていく仕組みづくりをしている、ということ福祉給付課の方から聞いている。

(部 会 員) (専門的な文言が多いため)保健師さんが1人説明員として会議に出席したほうがよいかもしれないと思った。

(事 務 局) 「地域包括ケアシステム」については、担当部署に確認の上、次回の会議で説明する。

(部 会 員) いつも不思議に思っているのだが、人材確保について、かなり不足しているの目に見えてわかるが、若い方は待遇を見て応募する。子どもたち(中高生)の年代の話を聞いても「給料」と答える。雄武町内の給料は詳しくはわからないが、そんなに良くないのかなと思う。固定給でなく、頑張ったら頑張った分だ

け昇給するようなやりがいのある職場を考えていかなければいけないと思う。社会福祉協議会もそうだが、力がないため、町に頼るしかない。町が高齢者を助けていくために、充実させていくために支援が必要かと思う。

(部 会 員) 人手不足ということで、ボランティアをもう少し社会福祉協議会などでも公募して、「このお仕事をこういった時間でお手伝いできませんか」と呼びかけることで、職場から離れて何もすることがない方で、「社会に貢献したい」というご年配の方が結構いるかと思う。ボランティアも含めて町全体で支えていかなければならないと思う。また、部会員のお話のように、プロの方に対しては、しっかりとした監理体制をしていかなければならないと思う。

(部 会 員) 雄武町でやっている取組は非常によくわかる。健康推進課の保健師たちも様々なことに取り組んでおり、民生児童委員協議会においても話をしてもらっている。ただ、今この報告書に記載されていることは、健康な高齢者に対する支援に当てはまることだと思う。何を言いたいのかというと、施設（特別養護老人ホーム）にお世話になるのに凄い順番待ちになっている。地元でそういう施設があるのに、他所の地域まで行って入らないといけない。結構そういう人たちがいる。保健師が来て色々な取組をすることは良いことだが、最終的にお世話になる施設に入れるような「器」を広げることができないため、人材も少ない。そういった面も含めて考えることができれば、高齢者支援全体として雄武町はまだまだ成り立つと思う。折角良い施設があるのに順番待ちで、その間に亡くなる方もいるでしょうし、いつまでも自分の生まれた町にずっと住みたいのに、それができない。基本的には、そこを最終的な施設も、希望者に合った運営をできるような体制を考えてもらいたい。

(部 会 員) 特別養護老人ホームについては、建設して20～30年経過しており、キャパシティも足りず、立地条件も今の場所でもなくても病院方面に上げたらどうかという意見もずっとありながら進まない現状かと思う。

(部 会 員) 部会員が運営している地域活動支援センターで、ボランティアとして入るところで、今、高齢者の方が退職されてから1人になって認知症になってしまう方が多いと思うが、生きがいという面で、部会員の施設を活用してボランティアを集めるなど、一定のお金を高齢者へ支払う形で、1人にさせない体制をつくっていくことはできないかと最近思い始めた。身近で多く耳にするようになり、退職された方の選択肢があれば生きがいを感じられるのではと思う。人のためにやるというのは生活の中に力が湧くというか、そういったものもどうかと思

った。

(部 会 員) 部会員が代表を務める「イコロ」について教えてほしい。

(部 会 員) 地域で暮らす障がい者が自立のために通所する施設であるため、比較的自分で通うことができるような障がいをお持ちの方を対象にした自立支援センターということになる。今現在、社会福祉係や保健係の方からも、「高齢者の中で、こういう部分でボランティアとして活躍できるのではないか」ということで、入ってきてくれている高齢者も実際にいる。ただ、例えば75歳で障がいを有する方、障がいと高齢者の境のような方が通いたいとなる場合、ボランティアとデイサービスのどちらが適切なのか、デイサービスの必要性がない方の場合、通う場所がない、となる。障がいを持つ方のために自分たちがボランティアをすることで、生き生きと、本当に「楽しい」と言っている方もいるので、健常者と重度障がい者の狭間の方を、重度にさせないというところのまちづくりが必要かと思う。ここで何ができるかというのは私の施設でも考えているところではある。

(部 会 員) 娘が2歳8か月で、子育て支援センター・親子教室に通っており、時々同級生と遊んだりして日々過ごしている。雄武町に引っ越してきて4年目になるが、自分の地元と比較しても、他の町と比較しても、私の中では子育て支援も高齢者支援も進んでいるように感じる。高齢者事業、子育て事業が別々に動くと物凄くタイムロスになっていると感じることがある。例えば、私が親子教室に行きながらたまに物足りなく感じ、その時どんなことが良いか考えた時に、もっとおじいちゃんおばあちゃんと私の娘を遊ばせたいと思った。天気の良い日に子どもと散歩していたら、散歩しているおじいちゃんおばあちゃんが話しかけてきてくれて、よく話に花が咲いたりして、他の方も集まってくるといったシチュエーションがあるのだが、子どもは子ども、高齢者は高齢者ではなく、ミックスして同じ場にいることで、例えば本来高齢者を看ないといけない方々が、施設に入りたいけど入れない方のフォローができるのではないかと。逆に、親子教室に高齢者を何人か配置することで、母親たちも自分の子どもだけでなく高齢者へのフォローも、2歳児の親であれば少なからずできるかと思う。顔を合わせる機会を作る。高齢者も「自分も何か社会の役に立ちたい」というところが、同世代の方々とお話をしたり何かすることは良いことだと思うが、例えば子どもに何か教えるというところで「自分の必要性」を見出していただければ、もっと生きる活力につながるのではないかと。新たに高齢者事業で良いこ

とを作っていくとなると時間がかかると思うので、子どものサポートで良い事例を高齢者事業に混ぜ合わせたりすることなど、0から1をつくらなくても良いのかなと、素人ながら思った。

(部 会 員) 図書館のキャパシティを活用して老若男女が交流する場として建設されたのだが、コロナ禍で活動が制限されてしまったこともあり、これから図書館長とも話を進めながら、様々な取組を実施していきたい。

(部 会 員) 高齢者と小さい子たちを別々ではなく一緒に活動できることで、お年寄りの方たちも、普段会えないお孫さんたちと会っているような気持ちになり楽しい気分になると思うので、良いことだと思う。

(部 会 員) 雄武町の高齢者の方々の困り感がどこにあるのかが正直よくわかっていない。雄武町には単身赴任中で、地元では町内会で社会福祉協議会の担当をしていて取組を色々やっていた。やはり、1人世帯の高齢者をどう支えるか、それぞれ、支えあい事業だとか、洪水等が発生した際の避難対策をどうするかだとか、どちらかというところ「いのちを支える」ことを焦点にしていた。高齢者のお祝い事業もやっているが、今、1人世帯が凄く多くなっている。除雪ができないから除雪の担い手をどうやって確保していくか、はっきり言って（地元の）町はお金がないからやってくれない。社会福祉協議会に丸投げ状態になっているため、そういった中でどうしていくかというのは切実な話で、無償ボランティアを組織したりしている。「地域包括ケアシステム」という話があったときに、雄武町における高齢者の困り感はどこにあるのか、どこに焦点を当てたら良いのかというふうに話を聞いていた。その辺りを教えていただきたいと感じた。

(部 会 員) コロナのせいにする訳ではないが、茶飲み話が中々やりづらいこともあり、自治会も総会もできない状態であるため、ウィズコロナで人と人とのつながりを復活させながら、問題点を探りあっていくことが今後の課題である。次の単位施策である「いきいきと活躍できるまちづくり」につながるが、高齢者に限らず町民全体が生きがいをもって仕事ができるようなまちづくりを、町民の意見を聞きながら施策を行う必要があるが、行政はどうしても事業を単一的に一つひとつ掻い摘んで細かすぎてしまっていて、リンクする事業があるはずなのだが、なんとか、リンクしながら、例えば社会教育と福祉というのもつながりは必ずあると思う。そういった部分でお互いに連携していただくのが企画調整係の仕事なのではないかと思う。特にまちづくりの中核であると思うため、その辺りの調整もやっていただければと思う。

- (事務局) シルバー人材について、当時の保健福祉課（現在の福祉給付課）において国の「地域おこし協力隊」制度を活用して令和３年度に人材を募集したが採用には至らなかった。今年度も募集して採用しようと考えている。福祉給付課で求めているのは、社会福祉協議会に派遣して、１つは、高齢者が、例えば「今日体調が悪いから代わりに郵便局に行ってきてほしい」というような頼みごとをしたいというニーズに対応できるような事業、もう１つは、高齢者がもつ技能や知恵を活かせる仕組みづくり、シルバー人材制度の構築、制度設計をやっていたら地域おこし協力隊を募集して、「地域の活動支援員」ということで令和５年度採用に向けて募集を考えている。
- (部会員) その活動内容だと、幅が狭いと思う。幅が狭いと人が入ってこないで、もう少し自由にできる環境でないと来ないと思う。もう少し緩めた方が良いと思う。また、シルバー人材について、高齢者は車を持っていない方が多く、移動手段に困ると思うのだが、どのように補っていくのが課題と思われる。また、子どもと高齢者のふれあいについてもそうだが、図書館が市街地から遠いため、移動手段がないと高齢者は行くことができないと思う。「何月何日に子どもとふれあいませんか」と通知がないと来られないというところで、その辺りも考えながらやっていくと、少しずつ人は集まるのではないかなと思う。
- (事務局) コロナ禍以前は、児童センターにおいて、高齢者と、児童センターに来る児童との間で、プランターに花を植えたり、料理を作って一緒に食べたりというような交流は実施していた。高齢者については市街地区の長寿クラブなどに案内するなどピンポイントで依頼していたと思料されるが、その取組も年に数回であるため、頻度を上げるなどすれば多少なりとも交流の取組が活発化すると思料する。
- (部会員) 保育所に通所するような年齢の子どもとふれあいたいと思う。
- (事務局) 確かに核家族化で祖父母と暮らす世帯も少ないため、そういった意味でも、保育所辺りでそういった仕組みづくりを検討していければと思料する。
- (部会員) ぜひ実現してほしい。
- (部会員) 移動手段について、将来的には町内循環バス、大きくなくて良いので、都市部は無人走行しているところまで進んでいるので、他の部会で議論が出るかとは思いますが、特に高齢者や子どもの移動手段を確保できればと思う。町内の施設がそれぞれ離れているため、そういう部分も含めて検討いただきたい。
- (事務局) ハイヤー券（居宅老人交通費助成事業）も枚数に限りがある。また、人手不足

の面だと、第一ハイヤーの運転手がいなくて困っているという話もある。産業建設・環境部会においても第一次産業の担い手がない話が出ていたが、人手不足は共通の課題である。

(部 会 員) そうは言っても致し方ないので、何とか克服しながら進めていかなければならない。

【基本施策9 社会福祉の充実（32頁～35頁）】

(部 会 員) 基本施策指標の「障がい者支援の満足度」について、8.6%しかないのはなぜなのか。何が変われば良くなるのだろうか。その辺りは聞き取りが必要なのではないか。また、障がいの程度によって働ける・活動できる場があるかと思うが、そういった場が、町内にどの程度あるのか。受け入れる企業があることによって、障がいを持った方が雄武町に住んで生活ができるといったことに大きく関わってくることだと思う。我が子が障がいを持っていた時に、自分が先に亡くなってしまった時、この子が独りになる。それを親はとても心配してしまう。そういう働く場所だとか、自分がいなくなった時も施設などでみてもらえるとといったようなものを感じられるのであれば、この町に定住したり、移住していただけるのではないかと思う。

(部 会 員) 障がい者支援の満足度については、ボランティア登録数や福祉体験の延人数など基本施策指標が低いことが満足度に反映されているのではないかと推察されるが、改善策は具体的にどうするのかということになると、障がい者へのボランティアの公募やその周知が問題になろうかと思う。

(事 務 局) 満足度については、まちづくりアンケートの結果に基づいているが、他の項目の満足度も軒並み低くなっている。具体的な検証、分析はしていないが、1つの要因として、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントを中止しているなど、日本が不景気になっていることに対する町民の不安が数字に影響しているものだと思料する。

(部 会 員) 保育所で働かせてもらっているのだが、保育所でも障がいを持った子どもが入所している。先生方は色々苦労して毎日仕事をしているが、先生方も研修など色々な場所に行って勉強して、常に知識を高めていったほうが良いと思う。コロナ禍の影響で研修にも行くことが少なくなってきた、先生方も厳しいのかと思うが、やはり常に研修を先生方にも行ってほしいと思う。

(部 会 員) 障がい者の受入施設というのはまず雄武町にはない。なぜ、閉校になった学校

を活用しないのかと常々思っている。例えば、歩けるような独居老人を一か所に集めて生活してもらえるような施設、これは廃校になった学校の規模で十分活用できると思う。障がい者に関しても、紋別市には道立の養護学校がある。私は、よさこいの関係で紋別高等養護学校にお呼ばれたことがあり、普通の学校祭であった。ただ、わいわい騒ぐ子がいたりしたのだが、皆さん全然動じない。私たちはそういう人がその場にいたら「えっ」と動じてしまうと思う。私はそのような場に何回か行かせてもらった。3年くらい文化祭に招待された。踊りにいったのではなくて、私1人で見学。そういった施設があれば、もっと町民の人も障がい者に触れる機会があれば、だいぶ意識は変わってくるのではないか。生徒40人が出場するために60人の保護者が来る。それだけ大変だということを肌で感じているので、それをもし雄武町でやるのであれば、徹底してやったほうが良いと思う。町の悪いところは、これは何々課、これは何々課と全部バラバラであること。それを一本化して、やるのであればちゃんとそういうふうにやったほうが良いと思う。この障がい者の取組に関して言えばの話だが。受入施設がないところで私たちが議論しても、誰も、(部会員が)先ほど言われたように、先生方が勉強しに行く機会も無ければ、勉強する場所も無い。そういったところでとやかく言ってもしょうがない。町の力で呼んでくることを模索したほうが良いのではないか。それが障がい者にとってプラスになるのではないかと思う。自分の知り合いも、重度の障がいを持つ子どもが町外にいたのだが、親は普通に連れてくる。私たちが動じなければ何もしない。ただ私たちは見ていて、普通に接していれば普通に生活できる。健常者のほうが一歩引いてしまうと、相手は敏感に感じる。それは、自分たちが普段障がい者と接する機会がないから余計だと思う。そういったところで、そういう施設が町内にあればだいぶ変わってくると思う。紋別市にあって雄武町に無いのはおかしい。紋別市にできるのであれば私たちだってできる。そういったふうを考えていかないと何事もやっていけない。せつかく、廃校になった学校があるのであれば、そこを有効活用するようにしたらよいのではないか。本州では廃校を活用してホテルにしている。道の駅にしている。そういった発想の人が雄武町の人から出せるようになれば、少しずつ変わってくるのではないかと思う。

(部 会 員) 我々も町内で障がい者を目にする機会がないのが現実。接し方に苦労してしまう。私が小・中学生の時、他自治体のボーイスカウトに加入していたが、ボーイスカウトのボランティアで障がい者施設の修繕をしったりしたのだが、そうい

う機会を通して、障がい者という接し方をするのかと学んだし、小中学生ながら多少であるが理解することができ、良い体験となった。雄武町の子もたちについても、紋別市に行ってそういった施設に行ってみて、部会員の言われたとおり、まずは「障がい者ってこういう人たちなんだ」「こうやって接したら健常者と同じように会話できるんだ」といったところから入っていかないと、中々難しいのではないかと。

(部 会 員) 障がい者の方がいる施設では、例えば物を作ったりしていて、私は実際に高知県の施設から購入している。そういったところも雄武町でもできるのではないかと思った。

(部 会 員) どれだけ雄武町が障がいを持つ子の就職を受け入れられるかということなのだが、ずっと課題だと思う。まず、障がい者との接し方がわからない、どうして良いかわからないという時点で、昔から雄武町には障がい者がいない、目にしない。なぜかというと雄武町の障がい者の方は町外に出て行ってしまいうから。以前はもっと多かったはずなのだが、皆働ける場所がないから、探してもなかったから町外に出るしかなかったもので、雄武町に残っていない。そういった部分で、もう一度見直す必要があるとずっと前から言っていることだとは思っているのだが、町がどれだけ受け入れる体制があるかというところを、もう少し力を入れていただければと思う。あとは「障がいがあるからできない」ではなく、日を重ねるごとにできるようになっていくし、真面目に働くので、そのあたりをどう受け止めてもらえるかというところで、もう少し、役場の方も障がいのある方の理解を深める必要があると思う。

(部 会 員) 町がというよりは、どちらかというと例えば町内企業の社長さんも含めて障がい者を見ていただいて、「うちの会社でこういう仕事ならできるかもしれない」といったイメージを持つ機会があれば、職場の受入体制が整うと思う。まずはそういったところから入っていかないと、ある意味町に投げても難しいところではあると思う。ロータリークラブなど、会社の経営者の人たちに見えていただいて、障がい者の就労にあたり、国の支援制度を活用できるため、現に、西興部村には施設があり、牧場で単純な仕事をお願いしてやっていた部分もあり、(他業種においても、依頼できる仕事は) 探せばあると思うので、そういったものも課題としながら、これも1つの人材確保だと思って、「こういった仕事であればうちでも受け入れられる」という(「気づき」の機会を設けることができれば良いと思う。)

【基本施策 10 社会保障制度の充実（36頁～38頁）】

（部 会 員） 「データヘルス計画」について説明できる方はいるか。

（事 務 局） 所管課に確認の上、次回の専門部会で回答する。

（部 会 員） 個人個人のプロファイルというか、特定健康診断のデータを、例えば高齢者が持病をどれくらい持っていて、血圧・体重諸々を町としてデータバンクを持っていたら保健師やホームドクター等の手助けになるというような、そういう方向になっていく気がする。マイナンバーカードについて、2024年で健康保険証がなくなってマイナンバーカードに切り替わるそうだが、じゃあマイナンバーカードで何ができると良いのかが全く見えてこないところではある。できればこういったデータヘルスといった個人個人の、特に高齢者も含めて、そういったところと紐づけができれば良いと思う。町の国保病院も数億円、一般会計から特別会計へ繰出ししているため、国保病院の運営自体が、単独での運営というのは厳しくなると思う。

（部 会 員） 社会福祉の分野と繋げて、もう少しできるのではないかなと思う。

（部 会 員） 社会保障の分野は専門外だからあまりわからないのだが、ただ、先ほど部会員が言っていたが、病院に人（患者）がいない。いつ行っても。母親が老人保健施設にお世話になったのだが、週2回行くのだが、まず誰もいない。特別養護老人ホームと国保病院の場所をチェンジすることはできないのか。特別養護老人ホームの施設を診療所にして、国保病院の施設を特別養護老人ホームにすれば良い。立派な施設なのだから。そうすると大分良い方向に変わってくるのではないのか。今の病院は入院させないようにしており、駄目だと思っている。その辺りは私達がとやかく言っても仕方ないのだが、そう思っている人は少なからずいるのではないかと思っている。今の病院の運営は大赤字だと思う。そうであれば、規模を縮小して、特別養護老人ホームの施設を診療所にして、スタッフを今のまま雇えば問題ないと思う。

（部 会 員） 病院に対する請願書が出ているため、次回の専門部会においてもそのところも説明できるかと思う。

（事 務 局） 今回、医師の退職に関して、町民の有志から、医師の再任を求める請願書が出され、9月議会定例会において総務文教常任委員会にその場で付託され、これから継続審議される予定となっている。なお、当該医師は現在、別の病院で勤務しているが、再任を求める請願という形で出されている。

(部 会 員) 町長が選挙に出た時に、国保病院は「一丁目一番地」だということであった。できるだけ地元で長く居てもらうためには病院が不可欠なものであるため、町民として厳しい目で見ていきたいと思う。この件について公聴会を設けていただきたいと思っている。

(部 会 員) 以前の先生のような医師はもう戻ってこないのだろうか。あの先生のような人であれば私も信頼して国保病院に行けると思う。私の旦那が粉碎骨折した時に取り急ぎ処置をしてくれた人であるため、とても信頼していた。国保病院を診療所にしたとしても、信頼できるような先生が来ないと駄目だと思う。

(部 会 員) どのみち、雄武町の国保病院は一次医療であるため、専門性に特化した医師を呼ぶというのは難しい。他の総合病院等を紹介してくれるような役割を担っていただけるだけでも良いのだが。

(部 会 員) 今の国保病院では紹介してくれない。

(部 会 員) 町としてのホームドクターという役割を担っていただきたいと願っている。

(部 会 員) 病院だって会社と同じようなものだから、会社を運営するのに利益にならない、赤字になるのであれば、雄武町の財政をしっかりと考えたうえで運営していかなければならない。その社長の立場の人が良い運営をしていけば、まだまだうまくいくのではないかなと思う。そのサポートとして社会福祉協議会などの団体がついているのだから。

(部 会 員) 地域医療は一丁目一番地であり、これが不安だから町外へ行くという人もいる。他の自治体ではホームドクターとしての役割を担っている医師もいるため、もう少し頑張っていたきたいと思う。

【基本施策 11 学校教育の充実（39頁～43頁）】

●単位施策 1 小中学校の教育内容の充実

(部 会 員) 基本施策指標の4番目、「全国学力・学習状況調査で『学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強をしている』と回答した中学3年生の割合」について、コミュニティ・スクール協議会中学校部会の委員（昔の学校評議員）として先日校長先生と色々とお話をしたところ。

(部 会 員) 「全国学力・学習状況調査」は、毎年、調査する対象となる生徒が変わっていくため、その年によって波がある。ただ、例年同じような数字がでるということであれば、そここのところは認めなければいけないと思っている。学習については、単に時間数だけではないが、でも、少ない。考えられる要因はいくつか

ある。1番大きいのは学習習慣が身につけていないこと。決して難しいことをやらなくても良い。習慣をつけておかなければ、いざ自分で勉強した時に「やり方が分からない」というところから始まるため大きく遅れをとってしまう。この習慣は学校だけではなく家庭と連携して取り組んでいかなければならない。また、何よりも児童生徒本人が、最初はわからなくても強制的な形から入るかもしれないが、中学生になると将来を見据えて、意識していかなければいけない。ゲーム・スマートフォンなどの利用については、とても多い時間使っていることが全国学習状況調査でわかっている。正直親の責任と言わざるを得ないと思っている。与えた以上、家庭でしっかりと話し合っ規則を決めたりしなければならぬと思う。やはり、ゲームやスマートフォンなどは楽しいと思う。様々な情報が得られ、遊ぶこともできる。パーソナル、個人で自由に使えるというところがあるため、魅力的なところではある。そこでの兼ね合いが難しいと思う。また、子ども達は忙しい。部活動で夕方遅くまで、平日もほとんど実施しており、土日についても部活によっては町外で練習試合に参加するため、子どもが自由に使える時間がまず無い。そういったことを考えると、学習時間だけを増やすためには何かをやめなければならぬになってしまう。中学校としては「何かをやめろ」とは言えないが、やはり、その子その子によってもう少し考えなければいけない、指導していかなければいけないと思っている。

(部 会 員) あくまでも家庭学習は学校だけでは対応できない部分がある。特に家庭の部分では、親も、子どもが帰宅して何をしているかというのを把握することが必要かと思う。やはり LINE などに時間を相当費やしており、1日のタイムスケジュールの中でもかなり時間が多い。(勉強する時間を作るために) 親が携帯を没収するだとか Wi-Fi を切る時間を決めておくことや、携帯を使わない日を作るなど、そういうことをしなければならない。どうしても携帯に依存してしまうというものがあるため、(コミュニティ・スクール委員の立場として) 中学校にも PTA 会長さんにも、その辺りは検討していただければという話をしている。

(部 会 員) 携帯を没収したら寝てしまうと思う。本人のやる気がどこでつくかであると思う。私も子どもには日頃から勉強してと言うのだが。

(部 会 員) 学校も家庭にお願いするだけではいけないため、学校においても家庭学習を、まずは強制的に、週に1回全員提出する日を設定して、それも誰が出したか分

かるよう廊下に掲示するという形で取り組みを開始した。家庭学習の中身よりも、まずは提出するという事、意識づけからスタートした。すると、昨年と比較して16%、家庭学習に対する意識が向上した。ただ、今後の課題としては、家庭学習の内容や頻度などになっていくが、第一段階としてはまず意識づけの取組の場を作った。先生方が頑張って取り組んだ結果、数値が改善されたが、まだまだ安心はできない。

(部 会 員) 私の子どももスマートフォンやゲームをやっていたため、(家庭学習は) 本当に難しい問題である。中学校の先生方もすごい努力をしてくださっていると思う。児童センターで宿題に取り組んでいる児童がおり、楽しい宿題を出している先生がいる一方、学年によっては「解答がおかしいのではないか」と思う宿題もある。意欲が出るような、楽しくて面白い宿題があると良いかと思う。

(部 会 員) 勉強時間の話から少しそれてしまうが、宿題について、私も小学生の子どもがいるのだが、簡単なプリントで、勉強ができる子はものの10分程度で終わってしまうのだが、できない子は時間がかかってしまうのかもしれないが、提出したかしていないかを把握してない、提出をしなくても何も言われないという学年の先生もいるようである。そうなってしまうと、せっかく前の学年までは学習習慣が定着してきていたのに、出しても出さなくても何も言われないのであれば出さないということになってしまった学年もあるようである。中学校に入ってから定着させようと先生方が努力をしてくれていることはとてもわかるのだが、その前の段階、小学生の段階でも必要なのではないかと思う。

(部 会 員) 小学校低学年から、学習習慣をつけていかなければいけないと思う。雄武町では小中高連携協議会を組織しており、PTAも含めて交流を実施しているのだが、コロナ禍によって機会が少なくなっている。親御さんと学校の先生の懇親の場も含め、連携を深めていかなければならないと思う。

(部 会 員) 資料を見ると、教育の関係は町としては結構事業を実施していると思う。2年ほど前からコミュニティ・スクールを実施しており、それも重要だと思う。学力テストの結果等、指標が未達成と書いてあるが、この辺りは、町は入っていないはずであり、現場の学校の先生が一番大変だと思う。私は小学校のコミュニティ・スクールに入っているが、最終的には児童・親にアンケートをとったり、先生自身にアンケートをとったりして学校評価にするため、相当苦労されている。そして、学校現場は毎年メンバー(先生・児童)が変わるため、学力調査のような数字がすぐに増えていくというのは難しいかもしれない。先生

方が一番大変だと思う。ただ、教育に関する町としての取組は色々実施されており、今後は、現状維持プラスアルファで実施していただけたらと思う。

- (部 会 員) 私も中学校のコミュニティ・スクールに入っており、先生、PTA 含めて色々頑張ってくれている。あとは、携帯を 1 回置いて、お父さんお母さんとしっかり話をしようという日を月に 1 回ぐらい、時間を作ってもらえたらと思っている。

●単位施策 2 小中学校の教育環境の充実

- (部 会 員) 学校の建物は限界を迎えていると感じており、改修していかなければならないと思う。

- (事 務 局) 教育委員会としても雄武町文教地区基本構想を策定する予定であり、雄武小学校、雄武中学校のほか、武道センター、スポーツセンター、給食センターも含めた文教地区の構想を進めているところであるが、なかなか進んでいないということを教育委員会から報告を受けている。学校の大規模改修や改築など、具体的な内容はまだ決まっていない状況である。

- (部 会 員) 昨年度豊丘小学校が閉校し、他の学校も今後どうなるのかというところもあるため、小学校中学校含め、どういう構造にするのかというところを注視していきたい。

- (部 会 員) 国づくりもそうなのだが、まちづくりにしても根底をどう考えるかだと思う。やはり人づくりをしなければ町はなくなってしまう。町に残る人、もちろん出て行く人もいて良いのだが、人がいなくなると町は維持できなくなってしまうため、教育をどうするかということについても、それぞれの町の考え方によって大きく変わってくるかと思う。現在、国の施策で 1 人 1 台タブレット型パソコンを使用する流れになっており、「パソコンを活用して授業をする」ということになるのだが、建物自体が狭く、大型テレビが入ったとしても教室に入れることができない。感染症対策で空気清浄機や扇風機を導入いただいたが、これ以上置く場所がない状況であり、設備的に限界に来ている状態である。生徒が 30 数人教室にいる状態で、これ以上何が出来るのか、委員の皆さんに実際に見ていただいた方が一番わかるかと思う。お時間がある時で構わないので教室の様子を見ていただきたい。文教地区基本構想や、その後の建物の改修方法を検討する際は、そういった部分も含め、皆様のご意見を頂きながら作っていくのが良いかと思う。話題は変わるが、登校拒否、不登校傾向にある生徒がおり、先生方はその対応を行う。また、特別支援学級に在籍している生徒に関しても教員数は人数が決められているが、正直足りない。支援学級に在籍す

る生徒はこの後も増えることが予想されるが、人数が増えても教員数はほとんど変わらない。自治体によっては単費（自治体の一般財源）で、授業を実施することができる教員を配置するところもある。学校としてはなるべく保護者生徒の要望にかなえるように対応しているが、現状アップアップであり、これ以上対応してくださいと言われた時に対応しきれないと言わざるを得ない。そういうような状況があるということを知っていただきたい。決して、教員の働き方改革で「学校ばかり楽をしている」というように思われるかもしれないが、少し楽にさせていただきたい。先生方が倒れてしまう。校長としては、先生方に「早く帰ってくれ」と思っているが、帰ることができない、帰れない状態にある。先生方は、良い意味でもっと手を抜かないと、この先、先生方はきっと倒れてしまい、「この町に戻って来たい」と思ってくれる先生がいなくなってしまうと思う。高齢者支援に関しても障がい者支援に関しても教育に関しても考え方をもう少し変えなければいけないと思う。教育に関しては、教員の人員の現状維持というのは厳しい状況である。また、ICT（１人１台タブレット型パソコン）については、家庭に持ち帰らせたいのだが、どうしても家庭環境が色々あるため、インターネットに繋がらない家庭もある。ではその家庭に対してはどう対応するのかという問題もある。一番良いのは、金額はわからないのだが、町にあるどの施設でも無料で Wi-Fi が利用できる施設になれば良いと思います。それであれば、在宅ワークが可能な企業なども招致でき、移住施策にも波及していくかもしれないと思う。そういったことも含めて、先を見越して、長い目で見た取組をしてほしい。そうすると、色々と町の様子も変わってくるかと思う。

- （部 会 員） 中学校に関しては十分承知している。ハード面もソフト面も限界がきている状況である。第６期総合計画の後期、又は第７期総合計画にはトータルでグローバルに考えていかなければいけないと思う。ICT も含め、災害が起きた時の防災無線という部分も含め、グローバルに有機的に結びつけた中でまちづくりをしていかなければいけないと思う。働き方改革については、行政職員も同じように、ある程度ゆとりを持って仕事ができる状況でないと、新しいことは生まれないと思う。

●単位施策３ 開かれた学校づくりの推進

- （部 会 員） コミュニティ・スクール（学校運営協議会）については、コロナ禍のため現在

も開催回数が少ない状況である。今、一番問題なのは、部活動のことである。先生方の勤怠管理の部分で、部活動については学校だけの対応が限界であるため、運動系・文化系にかかわらず部活動を地域におろすというのが（地域部活動の）本来の目的であり、そのことについてコミュニティ・スクールで協議をしたいのだが、現在の会議では各学校のグランドデザイン（学校経営方針）の説明を聞くだけであるため、それは違うのではないかとということで教育委員会に意見を伝えているが、なかなか進展しない。各小学校・中学校の部会としては、それぞれミーティングを行い、「こういう形でやっていこう」と進めている。「野球のお手伝いができる人、誰かいませんか」とあるとか、吹奏楽や卓球もそうなのだが、地域への協力を仰ぎながら、なんとか対応していこうと思っている。（町内に在住する各分野の指導が可能な方の）データバンクの作成も含め、喫緊の課題となっている。また、コミュニティ・スクールの最終目標としては、将来雄武高校に入学いただける小中学生をコミュニティ（地域）で作り上げていくというのが目標であったのだが、それが全然進まず、今回、コミュニティ・スクールの中に雄武高校の校長先生も入っていただくことになった。

（部 会 員） コミュニティ・スクールについては私も色々と思うところがあるのだが、町教育委員会とは一回もすり合わせをしたことがない状況であるため、高校がどのような立ち位置なのかが、現状でははっきりとはわからない。雄武高校としては、平成 30 年度から地域とより連携を深めるため、「OSP」（Oumu High School（雄武高校）Shine（輝き）Project（計画））という、商工会や観光協会、各小中学校の校長先生のほか、オホーツク教育局もメンバーに入った地域の緩やかなコンソーシアム（共同事業体）を組織した。OSP は波に乗っており、中学校の校長先生にも来て頂き、意見交換を行っているため、町のコミュニティ・スクールに参画するにあたって、どういう考えを持って臨めばよいのか少し悩んでいる。雄武中学校と雄武高校ではこれまでも中高連携を実施していたが、一部、コロナ禍で立ち消えになった取組があるため、連携を構築し直したうえで再開している。中学校と高校の先生は教科同士のつながりを現在実施している最中である。

●単位施策 4 魅力ある高校づくりに向けた支援の強化

（部 会 員） 高校の魅力づくりに関しては、町からの支援があり、とてもありがたいことである。可能な支援についてはほとんど実施いただいているように思う。その中

で感じているのは、高校の「魅力」というのは人によって違うことである。今後は様々な角度から深めたいと思っている。「魅力」として皆さん学力を想定しているかと思うのだが、本当に学力だけなのかというと、それは違うと思う。例えば、「部活動でこの種目ができない」だとか、「人間関係で雄武高校には行けない」だとか、「スケールメリット（学校・生徒規模）を考えると町外の高校に通ったほうが色々なことができる」だとか、そういうふうに親御さんも含めて思うかもしれない。もう少し、広く意見形成をしていけば、良い考えができるかと思う。私自身、ずっとこの学校で感じているのは、基本的な考え方は「つながりと発信」だと思っている。「つながり」というのは「地域」。部会員が行っている取組や、町における「ドコデモまちづくり講座」、小中高連携など、ローカルなつながりを活用した取組を実施しているが、実は、もう少しやりたいのは、「外」、グローバルなつながりである。町長のほうからも「やる」という話を聞いているが、まだ実現できていない。現代を生きる子どもたちは外とつながらなければ、ローカルとグローバルをリンクさせなければ、社会で通用できない。是非その機会を、町長も色々と考えがあると思うので形にしていきたい。可能であれば海外の漁業や酪農を学ぶような国際交流など、そういった視点もあれば良いかと思う。子どもたちが視野を広げていければ、高校レベルの深い学びにつながるかと思う。まずはいろいろな機会を与えていくことが必要だと思う。

（部 会 員） 部会員の言われたとおり、小さな町なのでアルバイトをする場所も少なければ、色々な職場体験、色々な職場を見聞きする機会が少ないため、まずは、雄武高校として何ができるのか町民も含めて考えていかなければいけないと思っている。また、財政支援について、大学進学 of 奨学金（給付型・貸与型）、就職者への支援金があるが、一部の町民から「給付型というのはどうなのか」というように言われる。親の所得制限もないため、制限をかけた方が良いのではないかというように言う人もいる。それも課題である気がする。町の財政もお金に限りがなくあるというわけではなく、「（お金が）無くなったら、それで（制度が）終わり」というようになってはいけないと思うため、少額にするなど、持続可能な制度にしたほうが良いのではないかと検討していただきたい。

【全体を通して】

（部 会 員） 小学校の特別支援なのだが、以前は力を入れているように見えたが、現在は、「そんなに…」というように見受けられる。先生方の勉強の熟度ややる気が少

し乏しいかと思う。もう少し力を入れていただきたいと感じた。また、いじめや不登校については必ず「きっかけ」というものはあるため、教育委員会が学校と連携して中に入って一緒に考えていくことがとても大事だと思う。私の娘もそうなのだが、教育委員会で対応していただいてかなりお世話になった。中学校に入ってから、物凄く先生に力を入れていただいて、今、学校に「楽しい」と言って登校している。なので、まずは連携、先生から校長先生、校長先生から教育委員会へ、ちゃんと子どもの話を聞くということが大事だと思う。このプロセスのどこかを怠っただけで、「こんなに大変なことになるんだな」と今回思った。対応する学校の先生方が大変だと感じているため、もう少し連携を強めていっていただけたらと思う。

(部 会 員) 小中学校の校舎はもう限界なのではないかと感じており、喫緊の課題かと思う。

(部 会 員) やはり、まちの問題は「人」、他のまちからこの町に人が入ってこなければ解決はないと思う。この町だけで完結するのではなく、外部から人を入れなければならない。そのあたりが柔軟になれば多くの問題は良い方向に向かうのではと思う。また、高齢者のところで話が出たが、「この部分だけをやる」（高齢者の問題を解決するために高齢者施策だけを行う）というのは解決にならないと思う。やはり、人と人とのつながりがあるため、小さな子も高齢者の人も障がい者の人も、全員がどこかに集まれる、強制的に連れてくるのではなく、行きたい時に行けるような場所があり、そこで人と人との出会い・触れ合いの中で色々な課題が解決されていき、また、そこから相乗効果で様々なものに波及していくかと思う。皆が自由に集まれるような場所があると良いと思った。

(部 会 員) 部会員と同様、やはり皆で集まれるような場所、子どもが家族以外の大人と関わることができる場所・機会があると良いと思う。私も久々に雄武町に帰ってきて、町内のお祭りに携わるようになった中で、「雄武町にはこんなに人間的に魅力のある人達がいて、一生懸命頑張っているんだ」と感じていて、そういった人たちに関われる機会、触れる機会があれば、「私も雄武町に残って働きたい」、「雄武町に戻って働きたい」というように思う子どもたちが増えるのかと思う。そういった経験は、やはり小規模（自治体・高校）だからこそできると思う。雄武高校の生徒も自主的に事業所へボランティアで来てくれている。「せっかくだから、紋別（市で実施される）販売会に来てみない？」というように言ったら、親の許可も得たうえで、一緒に紋別市に行き、販売を手伝ってくれた。「高校も理解してくれているんだ」と、昔はそういうイメージが無か

ったのだが、そういうように感じたため、こういった機会をもっと作れたら良いのかなと思う。雄武町の魅力もわかり、「(雄武町に) 残りたい」と思ってくれるかと思うため、職場体験も少ないのだが、そういうものも増えていったら良いと思った。

(部 会 員) どうしたら「活気あるまち」ができるだろうと思ったのだが、スポーツクラブ、サッカーや野球などは興部町に行く子がほとんどであり、「なんで雄武町でやらないんだろうね」と思ってしまう。クラブがあっても継続しないというか、以前、娘もバスケット少年団に所属していたのだが、すぐ無くなってしまい、「なんか続いていくものがないよね」と言う。子ども達が違う町に行って頑張っている現状をもう少し町は気づかないといけないかと思う。私は読み聞かせボランティアをしているのだが、小学校でボランティアを募ってもなかなか集まらない。中学校で「部活の支援をしてほしい」と言ってもなかなか集まらない。何か、こう、「活気がない」と言うか、「やってやろう」という気概が、ちょっと見当たらない状況であると思う。

(部 会 員) やはり連携は大事なのではないかと思う。「ここはこの人」「ここはこの人達」でなく、横断的なつながりが大事なのではないかと思う。

4 その他

○第2回専門部会は予定通り10月17日(月)18時30分から開催する旨企画調整係長から補足。

○委員に配付した「雄武町地域公共交通等に関する町民アンケート調査報告書」については、11月に開催する審議会もしくは専門部会において、意見交換を行う旨企画調整係長から補足。

5 閉会(閉会時刻:午後8時54分)